日刊 動労千葉

79.11.13

No. 274

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

二期工事阻止、備蓄ゼロへ向けて

悲しみを怒りに変え、前進しよう！

戸村委員長追悼集会開催さる

十一月十一日、三里塚第一公園で、空港反対同盟戸村一作委員長追悼集会が開催された。

追悼集会には、全戸動員をもって参加した反対同盟を先頭に、全国の戦闘的労組、部落解放同盟、住民団体、支援団体約三、〇〇〇名が結集し、動労千葉からも各支部代表動員五〇名をもって参加した。

追悼集会の全参加者は、悲しみをのりこえ反対同盟十四年間の闘いの最先頭で闘い抜かれた戸村一作委員長の思想と精神を受けつぎ、三里塚闘争勝利をもって応えることが戸村一作委員長への真の追悼であると確認しあった。

遺志をうけつぎ廃港をかちとることが残されたわれわれの使命

――石橋副委員長――

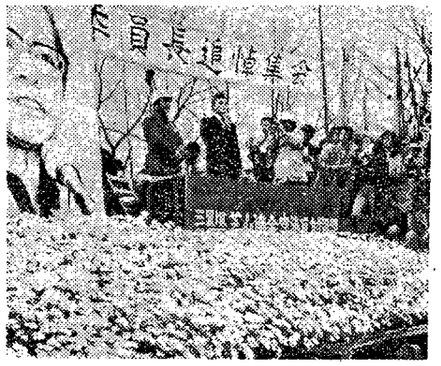
集会は、北原事務局長の司会のもとに全員の一分間の黙禱により開始され、遺族の方々の献花につづいて全員が黙々と献花を捧げるなかで行なわれた。戸村夫人、御子息の勝二氏、弟の戸村義弘氏から遺族としてのお礼のことばが述べられた。

勝次氏は、「実力闘争・空港廃港こそ父一作の遺志だ」と述べ、戸村義弘氏は闘士であったと同時に、こよなく芸術を愛し、自らも敬虔なキリスト者であった兄一作氏をしのんで、「聖書の中に『家造りの捨てた石が隅の柱石となる』という言葉があるが、三里塚の農民が戸村一作を真の柱石とした。空港廃港への勝利の中に、戸村一作を『蘇（よみがえ）』らせてほしい」と訴えられた。

反対同盟から石橋副委員長、内田行動隊長、長谷川婦人行動隊長、青柳老人行動隊代表、青年行動隊代表、二期工区敷地内島村良助氏、小川嘉吉氏が立って、それぞれ悲しみをのりこえ、二期工事阻止、空港廃港へむけて闘う決意と追悼のことばが述べられた。

とりわけ石橋副委員長のことばは、戸村委員長亡き後の反対同盟全員の闘いの決意を代表するものとして鮮明にかたられた。

「反対同盟十四年間の戦いにとって戸村委員長の功績はまことに大であった。戸村委員長は多くの犠牲、死をのりこえ、自らが身を挺した闘いをもって現在の三里塚闘争の基盤をつくった。反対同盟にとって偉大な指導者を亡くしたいま、すべての皆さんが亡き戸村委員長の遺志をうけつぎ廃港まで闘うことが残されたわれわれの生存権・生活権を守る闘いだ。戸村委員長の『三里塚は正義の闘いだ』といった遺訓をうけつぎ最後まで闘う」



戸村委員長、目をみひらいて私達の闘いを見ていて下さい――関川委員長――

共闘団体の最初にたって追悼のことばを述べた関川委員長は、

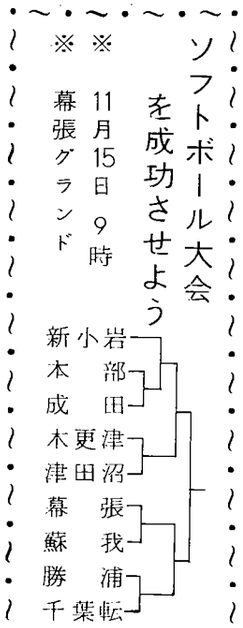
「戸村一作委員長、あなたは反対同盟、そして全国の闘うすべての者の指導者だった。『農民は農地を武器に、動労は鉄路を武器に』と労働者の闘いに深く理解を示した最も良き労農連帯の理解者であった。われわれはこれに応えて労働者の力をもってジェット列車を二波のストライキで七本止めた。動労千葉は、三里塚闘争を継承発展させるものとして今後も労農連帯を強め闘います。戸村委員長、目をみひらいて私達の闘いを見守っていて下さい。」と闘魂をこめて語った。

つづいて各支援団体が次々と立って、心を一つにして、三里塚闘争勝利の日まで闘う決意をこめた追悼のことばが語られた。

集会の最後に北原事務局長から「同盟は、『話し合い路線』なる同盟破壊策動を粉砕して、今後も創意工夫をもって空港実力廃港への闘いを強化する。当面、事業認定切れの十二月十六日に、本年最大の大動員をもって全国総決起集会を現地で開催する」との特別報告が提起され全参加者が圧倒的な拍手でこれにこたえ、戸村委員長追悼の一大決戦として12・16に決起することを誓いあった。

ソフトボール大会を成功させよう

※ 11月15日 9時
※ 幕張グランド



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！